

東亞天文協會觀測部月報

〔注意〕 今後、本會觀測部内の各課の學術的な諸報告の詳細は、成るべく花山ブレテン記す。故に部員は必ずブレテンを見られたし。

流星課の月例報告（花山ブレテン第280號参照）

課長 小横孝二郎

まづ最初におわびをせねばならないのは、久しく發表を休んで折角多くの觀測を御送りになり乍ら其結果を見得ずして失望させた事であります。個人的に多忙であつた事が因であります。實にすまない事でした。

今後、流星の詳細は花山ブレテンに載せることとしました

× × × × ×

去る8月の觀測は例によつて多い。特筆すべき事は南米支部の勝浦茂雄氏の御奮闘である。南半球なので我々と相反して觀測はあまり樂ではないにかゝはず、孤軍よく努力、連夜觀測に従事せられた。次に新觀測者三君を紹介する。

廣島市仁保町本浦

和田 渉君

東京市澁谷區千駄谷町3ノ496

押田 正也君

本會ブラジル支部

勝浦 茂雄君

流星群の出現狀況

ペルセウス流星群

1933年のペルセウス流星群の極大期は月明と天氣惡とによつて、充分なる觀測をなし得なかつたが、本田、松本、森下、山崎其他の諸君の努力によつて麗げながら出現狀態を察知する事が出來た。即ち12日の曉（Factorにより修正すれば）一時間30個内外の流星を見た事になつてゐる。例年の出現に比し別に著しい相異はひとめられてないが光度の大なるものは幾分少かつたのではあるまいか。13日の觀測が乏しい爲何れの日に極大があつたかは決定困難である。

北米 Columbia 大學の John A. Thebald 氏より私の許に送られた同大學にて行はれた觀測(すべて Counting のみ)によれば、12日早曉に極大を見てゐる様である。

末期の流星は空がよくなつたので可成り追跡されてゐるが特筆すべきものはない。
下に森下君の得られた結果を採録する。(観測はすべて夜半後)

八月	時 間	流 星	ペルセ	同一時間平均	F	ベ群一時間平均修正値
1日	90m	9	4	2.6	0.5	5.2
7	60	2	1	1.0	0.3	3.3
11	80	15	11	8.3	0.4	20.6
12	40	7	6	9	0.3	30.0
15	90	10	6	4.0	0.5	8.0
16	120	23	15	7.5	0.7	10.7
17	180	22	18	6.0	0.9	6.7

白鳥座 γ 流星群

東京の勝修三君は21日より24日に至る三夜に亘つてこの流星群を観測されてゐるが、往々見る爆発性のものはなかつた様である。一時間の平均出現数は Factor により修正するも 5個以内のものに過ぎない。同君の認めた14個の同群の流星を光度別にすれば、

-1: 1個 1.5~2: 4個 2.5~3: 9個

である。この流星群は同じく東京の稻垣君にも認められてゐる。

其他の流星群

南米の勝浦君によつて26日鯨座 β 附近($\alpha=4^\circ$ $\delta=-21^\circ$)に輻射點を有する流星が認められてゐる。其他ペガス座、セフェウス座、魚座等に流星群が見られてゐるが顯著のものではない。

變光星課報告 (14)

小 山 秋 雄

3月中の観測報告次の通り。住所、使用器械は前號を参照されたい。

星 名	観 測 数					星 名	観 測 数				
	木 邊	今 津	笹 部	加 藤	西 村		木 邊	今 津	笹 部	加 藤	西 村
RW Aur	11	—	—	—	—	R Leo	—	—	—	—	4
ε Aur	—	4	—	—	—	R 1.Mi	7	—	—	—	—
RV Cnc	10	—	—	—	4	R Lep	7	—	—	—	—
s CMi	7	—	—	—	—	U Mon	5	—	—	—	—
α Cas	1	—	—	—	—	X Mon	8	—	—	—	—
o Cet	4	5	5	10	7	BL Ori	4	—	—	—	—
ζ Gem	14	—	8	—	—	X Per	—	4	—	—	—
η Gem	9	—	6	—	—	合 計	87	13	19	10	15

ミラ(くじら座の0)の觀測 昨年12月より本年3月に至る觀測を一括して發表する。(12月, 1月中の觀測は3月號に發表ずみ)

月日	今津	加藤	笹部	木邊	西村	月日	今津	加藤	笹部	木邊	西村
1934年						2月23日	—	<u>4.3</u>	—	—	4.5:
1月31日	<u>3.8</u>	—	—	—	—	24	—	<u>4.3</u>	—	—	—
2	<u>4.0</u>	—	—	3.6	—	26	—	<u>4.3</u>	—	4.0	—
3	<u>4.0</u>	3.9	—	—	—	27	—	—	4.2	—	5.4:
4	4.0	4.0	—	—	—	28	—	<u>4.3</u>	—	—	—
5	4.0	3.9	—	3.7	—	3	2	(<u>4.5</u>)	—	—	—
6	4.0	4.1	—	—	—	3	—	4.3	—	—	—
7	—	(4.1)	4.1	3.8	—	4	4.3	—	—	4.0	5.2:
8	—	4.2	—	—	—	6	4.4	4.5	—	(4.0)	—
9	—	4.2	(4.0)	—	—	7	—	4.5	—	—	—
10	4.1	4.1	4.2	—	4.2	8	—	4.6	—	(4.0)	—
11	—	3.9	—	—	—	9	—	—	—	(4.0)	—
12	4.2	4.2	—	—	—	10	—	4.7	4.5	—	—
13	—	4.1	4.2	—	—	11	4.5	—	—	—	—
14	4.2	4.1	—	3.8	4.3	14	4.8	4.8	—	—	—
15	—	4.1	—	—	—	15	4.8	4.8	5.3	—	5.5:
16	4.2	4.2	4.2	3.8	—	16	—	(4.8)	5.3	—	—
17	—	<u>4.2</u>	—	3.9	—	22	—	(5.1)	—	—	—
18	<u>4.3</u>	<u>4.3</u>	—	—	4.3						
19	—	(<u>4.2</u>)	—	—	—						
20	—	<u>4.3</u>	<u>4.2</u>	—	—						
21	—	<u>4.2</u>	—	—	—						
22	—	—	—	—	—	觀測數 合計	16	32	10	11	7

備考 : = 不正確, — = 月あり, () = 低空

使用器械

今津氏 ガリレオ双眼鏡 (2×)
 加藤氏 プリズム双眼鏡 (10×)
 笹部氏 { 肉眼 (2月8日—16日)
 { ガリレオ双眼鏡 (4×) (2月21日—3月16日)
 木邊氏 肉眼
 西村氏 { ガリレオ双眼鏡 (6×) 2月中
 { 4cm ファインダー (8×) 3月中

附圖は上の觀測値を横軸に日を, 縦軸に光度をとつて打つたものである. 上昇時には今津氏だけの觀測しかないが, 急速に増光し, 緩かに減光してゐるのは明である. 今津氏の觀測を標準にとると, 木邊氏の觀測は略0.3等級明るく, 加藤, 笹部兩氏のものとは略一致し, (但し笹部氏の3月15, 16日のものは著しく暗い) 西村氏のは著しく暗い. 此の個人差のあるのは, 別にその人の觀測が不正確だといふわけでは決してな

い、いくらその差が大きくても、その差の大きさが何時も揃つて居ればよいのである。

極大時の決定であるが、1月20日から25日までの値は月のために普通より明るく見られた筈であるから、餘り信用のできぬものである。此の事を頭に入れて光度曲線をえがき二分法によつて極大を決定すると、極大前の觀測が少ないため非常に確度はへるが、大體次の如くなる。

極大時 = 1934年、1月26日 3.8等

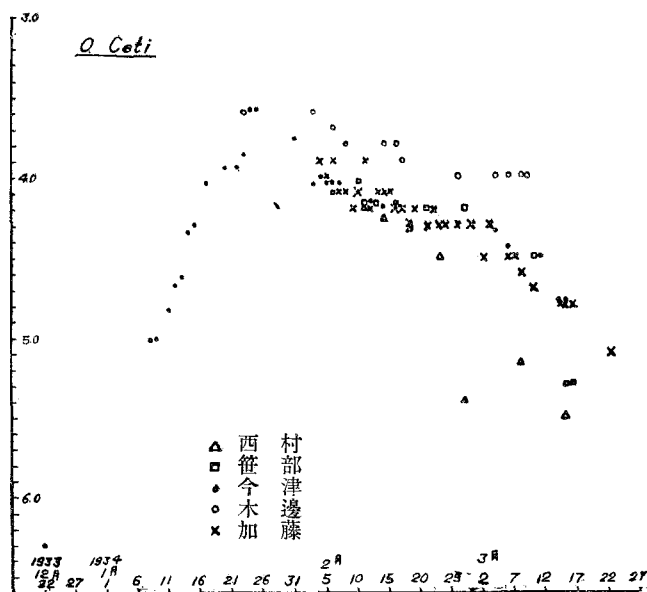
これを他の觀測及豫報と比較すると、

プラトゲルの豫報 2月4日、即ち9日早く、

カンベルの豫報 2月4日、即ち9日早く、

神田茂氏の豫報 1月30日、即ち4日早い、

伊、ロレタの觀測 2月1日(3.7等)、



週期を332日とし、上の1月26日を極大日とすると、

次の極大日 = 1934年12月24日

双眼鏡でも、極大日前一ヶ月より見えると思はれるから、11月中旬よりの觀測が望ましい。

(小山)

遊星面課報告

金星が暁天に、木星は衝に近く、觀測部員にとつては絶好の時ではあつたが、天候が甚だ悪く、又部員が未だ々々不足でスケッチも多く集まらなかつ

た。この點は大いに會員諸賢の奮起を望む

觀測概況——

金星 上旬には稍天候に恵まれて居たが、別に見てすぐ模様を期待するのではなく連續的に見る習慣を持つ様にする事が、突發的な現像に對する最善の方法であるとして、見て張り合ひのないこともあるが、一層課員諸氏の御努力を乞ふ。

觀測表は未だ欠測日の方が多いが、出来る限りこれがなくなり度いと思つて居る。

金星面觀測表

	沓掛	102mm 200×		中野	102mm 80×		木邊	101mm 100×	
月 日	シー イン グ	模 様	参 考	シー イン グ	模 様	参 考	シー イン グ	模 様	参 考
2月27日	3	—	—						
3 1							5	?	—
6	4	無	—				3	—	—
7	4	無	—				7	無	—
8							4	無	—
10	5	無	—						
11	3	—	—						
17				6	?	スケチ			
20							5	無	—
23							7	無	—

木星 前半月はシーイングが悪く、下旬には、デフイニションが悪かつた。

多忙な宮本氏が下旬には餘裕が出来て、花山で相當觀測され一月より20枚以上もスケッチが出来て居るが、未だ發表出来るまで整理がついて居ないので、この點は目下歸省中の同氏の歸山後發表する。

大體の傾向は、昨年に比較して南溫帯が著しく黒くなつた事で、常に一番黒い北10°—15°の帯と大差がない位黒く、特に低緯度の方ほど黒ずんで居る様に見受けた。10厘程度では細かい點は見難い。15cm級を所持して居られる方のスケッチを望む。寫眞は木邊氏の10cm 100×で、3月25日22時15分の模寫で、シーイング8、デフイニション M→PR 程度であつたので、やや明瞭を缺いて居るが、小口径で見た様子は大體この様なものであろう。赤道及北溫帯は全體明るく南溫帯の白帯はやや暗い様である。白斑はこの時はデフイニションの關係上目立たつてない。

以前木星一公轉期中の年々の模様の大體の模寫が、故中村氏のを初めとして、大體そろつて居るが1928年度の分が今、手許にないので、スケッチのある人は是非御送付願ひたい。(幹事記)

月面——當分當課で報告する。

二月上旬、月齡24—5日の頃に、京都高井氏によりプラトI火口の近くに、「煙の如きものが見えた」と大毎紙上に報道されたが、其後同氏、伊達氏、宮本氏等により、一般月圖には記載の少ない不規則な山脈の影であつて、全くザヤリナリズムに災されたものであつたらしい。これに對して報道者たる高井氏は反つて迷惑された點があるので同氏よりの一文を次に記載する。然しこの事件はこれだけの問題としても、月面に對しても決して變化のないものとして見向もしないと思ふ。寧ろ同氏の觀測に對する熱心さを受けて、又一面課員に對してこの方面の仕事をも常に氣を付けて頂き度いと思ふ次第である。

(幹事記)

“先日の大毎紙に月面に關し私の事が掲載されてありました。あの事は私が月を覗いた時、以前見た事の無い濃い煤色の不規則な影様の模様を認めたので、簡単なスケッチと共に、之は何でせうかとお尋ねの意味を込めて、天文臺宛に手紙を送りましたのが、新聞には興味本位に、さも煙と認められた様子に書かれてあつたのです。ですが私の報告の着くのが遅く、天文臺の誰方もそれを確認されても居ず、それに早くも記事になつてしまつた様なわけで、私としまして、始めから“煙だ”などと思つて居たのでもなく、その觀測の正否が明かにされるまでにあまり事が大きくなつて當惑して居る位です。どうかあの記事通りにお信じ下さいません様にお願ひ致します。あまりに事を大きくして、先生を初め皆様に御迷惑をお掛けしました事に對しては深くお詫び申上ります。”

(高井博典)

黃道光課報告 (1934年3月の結果)

幹事 淺野英之助

本月から再び月報を連載する。小生本來、不健康にして經驗淺く到底諸君の御満足は得られないであらうが、しばらく荒木課長に代つて本課の整理に當ることゝなつた。諸君と共に全力を擧げてあの朦朧たる舌狀光の怪物を、美事ひつ捕えたいものだと思つてゐる。幸に御協力あらんことを。

×

×

×

本月は未だ熟練家の顔振れも描はず、觀測數も例年に比して甚だ少數であるが、茲に新たに熱心なる同志中野君を大分縣に得たことは喜ばしいことである。同君一層の鍊達と御活躍を祈つてやまない。

岐阜の廣瀬君は未だ靜養中であるが四月頃より觀測再開される由である。

黃道光(西天), 觀測者, 觀測地, 觀測日一覽 (數字は日附を示す)

觀 測 者	觀 測 地	1 月	2 月	3 月
笹 部 榮 一	大阪府池田町			10 16
本 田 實	鳥取縣八東村	7		16 17
淺野英之助	山口縣長府町			9
中 野 繁	大分縣中津市			8 17

1, 2月の概況

昨年末以來しばらく休止の状態になつてゐた爲に, 大切な宵西天強光期の大部分を逸して甚だ遺憾であつたが, 僅かに1月7日に1回本田君の2米に餘る積雪を踏んでの觀測が得られてゐる. 頂點は充分に伸びて, 天頂より稍々以東の銀河に至るまでの光帶も見られてゐるが, 明るさは例年に比して以外に淡い. 残念にも2月は全く觀測が得られてゐない. 3月には入つて漸く新進の熱心なる觀測者間に再び觀測が始められた.

3月の概況

本月は總て西天であるが, 大體に於て, 明るさは昨年通り例年に比して稍々劣るやうである. 頂點の位置は, 黃經 60° — 70° 附近ではほど黃道上にあり, 黃經が進み漸く銀河と交はるに及んで稍々北偏してゐる. 中心線の傾は本田君により $N10^{\circ}$ が記録されてゐる外大體, 僅か北傾を示してゐる. 消長, 變動は餘り認められてゐない.

本田君は位置に恵まれてゐる爲か, とかく低空の混濁に融け込んで了ふ最低部の黃道光を, 内部の等光線が結ぶ如く見てゐられる. これは興味あることと思はれる.

●從來の黃道星圖及び報告用紙殘部多少あり. (報告用紙は豊富) 幹事まで.

黃道光課の現況

1921年十二月30日の三澤氏の觀測より昨年末に至るまでの觀測總數を掲げれば次の如くである.

年次	西天	東天	ブレテン
1921	1回	0回	127,
1922	35	2	127,
1927	44	12	113, 121, 141,
1928	46	11	142, 164, 168,
1929	40	19	164,
1930	149	77	166, 168, 179, 190, 208
1931	358	119	212, 227, 252,
1932	293	89	255,
1933	230	78	275,
計	1196	407	

以上, 東西兩天を合すれば總數1603個となり課員³⁹名の努力の結晶である. 此の外に南米ブラジルの觀測者に依つて夥しい觀測がなされてゐるが, 最近數不詳のため加へられてゐない.

太陽課 黑點相對數報告 (1934年三月)

觀測者(觀測地)	松本(臺灣臺中高女)	中野(大分縣中津市)	山田(山口縣小郡町)	日野(愛媛縣新居郡)	改發(神戸市須磨區)	荏部(神戸市灘區)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	井澤(大阪府岡中學)	北村(大阪府外布施)	西村(京都市左京區)	龜井(花山天文臺)	木邊(滋賀縣中里村)	三澤(長野縣上諏訪)	沓掛(長野縣青木村)	清水(靜岡縣島田町)	森久保(橫濱市中區)	水谷(東京市本郷區)	稻垣(東京市芝區)	山根(東京市澁谷區)	千葉(岩手縣水澤町)	下保(札幌市豐平町)	
鏡徑耗	50	102	75	98	150	75	36	110	50	60	55	73	73	102	100	35	38	75	44	38	50	58
倍率	40	55	48	69	68	77	55	92	62	90	64	60	83	75	73	50	50	30	43	65	50	44
1	雨	0	0	0	0	0	曇	0	曇	0	0	0	0	曇	0	0	0	0	0	曇	0	
2	雨	曇	0	0	0	0	0	0	0	曇	欠	0	0	0	0	曇	0	欠	0	0	0	
3	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	欠	0	0	雪	0	0	0	0	雪	0	0	
4	曇	雪	曇	雪	0	0	0	欠	曇	0	0	0	0	雪	0	0	0	0	0	0	0	
5	曇	雪	曇	雪	0	0	0	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6	曇	雪	曇	曇	12	11	14	0	0	欠	0	0	11	0	0	0	0	0	0	雪	11	
7	曇	曇	12	曇	13	13	16	13	0	欠	0	16	15	32	14	0	0	11	12	11	15	
8	14	曇	17	曇	13	13	16	13	0	欠	0	0	15	27	15	12	14	15	16	27	雪	
9	15	12	29	12	16	17	20	曇	24	欠	14	15	13	27	13	11	15	15	12	29	16	
10	19	14	42	12	16	16	22	13	欠	14	15	13	13	27	13	11	15	15	12	26	曇	
11	13	13	25	欠	12	13	雨	病氣の爲め	雨	欠	雨	曇	16	25	0	雨	曇	12	雨	雪	0	
12	雨	0	雨	曇	0	0	0	0	0	欠	0	0	0	曇	0	0	0	曇	0	0	0	
13	雨	曇	曇	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0	0	0	
14	雨	曇	曇	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0	0	0	
15	曇	曇	曇	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0	0	0	
16	0	曇	曇	欠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	曇	0	0	0	
17	0	0	曇	0	0	0	忙	0	0	欠	0	0	0	0	0	0	0	欠	旅	雪	0	
18	0	旅	0	欠	0	0	測	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	旅	曇	0	
19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	忙	0	0	旅	雨	曇	
20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	旅	曇	曇	
21	曇	旅	0	欠	0	曇	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	旅	旅	雨	0	
22	0	0	0	欠	0	0	0	0	欠	0	欠	0	0	0	0	0	0	旅	旅	0	0	
23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
24	0	雨	雨	雨	曇	曇	曇	雨	曇	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇	0	0	病	雨	0	
25	0	曇	0	欠	11	0	0	0	0	0	欠	0	0	曇	0	0	0	0	病	曇	0	
26	欠	曇	忙	欠	11	0	0	11	曇	欠	0	0	11	曇	0	0	0	0	病	曇	0	
27	0	曇	曇	欠	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0	
28	0	雨	雨	欠	曇	雨	曇	曇	曇	曇	雨	雪	雪	雪	曇	雪	雪	曇	病	曇	0	
29	雨	旅	0	旅	欠	11	0	11	0	病	0	11	雪	雪	雨	雪	雪	0	病	曇	0	
30	雨	旅	0	旅	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	曇	曇	0	旅	0	病	曇	0	
31	曇	旅	雨	旅	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	曇	曇	0	0	0	病	曇	0	
平均	5	4	6	2	4	4	3	6	2	2	1	3	4	7	2	1	2	4	6	6	2	
日數	15	11	20	11	24	26	12	21	18	19	16	21	26	17	23	21	22	17	11	17	28	

●三月號の本欄にて御知らせする南米支部の勝浦氏の觀測は別表の通りである。●觀測報告用紙は品切中であるから此後は各自に於て型を一定して頂きたい。

